# 大腸癌の治療のため、当院に入院・通院された患者さんの診療情報を用いた医学系研究に対するご協力のお願い

研究責任者　　所属　一般・消化器外科　職名　専任講師
氏名　　岡林　剛史
連絡先電話番号　03-5363-3802
実務責任者　　所属　一般・消化器外科　職名　　助教
氏名　　茂田　浩平
連絡先電話番号　03-5363-3802

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの診療情報を用いた下記の医学系研究を、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「８ お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

１　対象となる方

西暦 2015 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日までの間に、一般・消化器外科にて大腸癌の治療のため入院し、手術を受けた方

２　研究課題名

右側結腸癌に対する鏡視下機能的端々吻合の有用性について

３　研究実施機関

慶應義塾大学医学部　外科学教室
慶應義塾大学病院　一般・消化器外科

４　本研究の意義、目的、方法

腹腔鏡下大腸癌手術では、腸管授動や血管処理、リンパ節郭清を鏡視下で行ったのち、創を延長し、腸管を体腔外に引き出し、腸管切離および吻合を体腔外で行う体腔外吻合(extracorporeal anastomosis;EA)が一般的です。これに対して、血管処理、郭清、切除、吻合まですべて体腔内操作で行う体腔内吻合(intracorporeal anastomosis;IA)という吻合法が 1994 年に報告され、その有用性や問題点についての議論がなされていますが、一般的に認知されているとは言えず、それほど普及していないのが現状です。体腔内吻合では腸管授動範囲や小開腹創の短縮により腸管機能の早期

回復が期待されます。また、米国で普及しつつあるロボット支援結腸癌手術においては、体腔内吻合が標準的に行われており、今後本邦でも普及していく可能性があります。

そこで本研究では、当院における鏡視下機能的端々吻合の治療成績をもとに鏡視下機能的端端吻合の有用性およびその安全性ついて検証します。

５　協力をお願いする内容

本研究におきましては、対象となる患者様の大腸癌の状態、治療の経過、術後の検査所見などに関しまして、診療録などの記録を参考に調査致します。通常の大腸癌における診療と同じ診療を行ってまいりますので、皆様に新たなご負担や研究の対象となることでの不利益をおかけすることはありません。

６　本研究の実施期間

西暦 2015 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日(予定)

７　プライバシーの保護について

1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名および患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第３者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
3) 患者さんの個人情報と、匿名化した診療情報を結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また研究計画書に記載された所定の時点で完全に抹消し、破棄します。
4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

８　お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科　　岡林 剛史
電話番号：03-5363-3802
対応できる時間帯： 月曜日～金曜日 午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分

以上